

- “動詞＋(ラ)レル” 全体でモダリティ表現に近い働きをする。
- 論文や白書、新聞記事などに定着している文体。
- 発話者だけの意見ではなく、専門家や世論の見方として客観的な内容であるというニュアンスを持たせる。

もちろん想定される動作主はいるが、  
動作主の表記はない。  
(例) 私に～と思われる：自発  
彼に～と思われる：受身

モダリティ表現とほとんど共起しない。  
(例) かもしれない、だろう

主たる事象

ト

動詞＋(ラ)レル

志波(2009)

モダリティ型

判断型

捜査は節目を迎えた  
捜査はお蔵入り

と 見られる  
と 見られる

【派生形1】 トの代わりにヨウニもOK。

(例) 捜査は節目を迎えたように思われる

・ 発言系動詞で主たる事象が基本形なら命令表現でNG。

(例) 掃除するように言われる

【派生形2】 思考系動詞は形式名詞への連体修飾の場合がある。

(例) 捜査は節目を迎えたものと見られる

ことが予想される

【派生形3】 主たる事象が動作性名詞の場合がある。

(例) 業界の強い反発が予想される

【派生形4】  $[(\alpha \text{ハ}|ガ) \beta]$  ト＋動詞＋(ラ)レル

・ 上記の判断型。実際の係り受けとは異なる。

・  $\beta$  は名詞。  $\beta$  の後に断定の助動詞ダを挿入して考える。

・ 文脈によって  $\alpha$  が無い場合もある。

(例) 日本は労働者人口が激減する国(だ)と考えられる

【動詞の種類】

○ 思考系動詞： 思う、見る(判断の意)、考える、感ずる、  
窺う、期待、予想、想定、懸念、推測

・ 基本形→動作主が発話者

⇒可能

・ テイルなど継続のアスペクト

→動作主が他者もしくは一般論

⇒受身

○ 発言系動詞： 言う(呼称の意を除く)、する

→動作主が他者、もしくは一般論

⇒受身

※具体的な行為を表す動詞ではない。

※動詞はかなり限定される。上例でかなり尽くされている。